

部会	学 年	教科書・単元名	提 案 者
	第2学年	啓林館 「かさ」	

教材名 「水のかさを 正確に はかって 伝えよう」

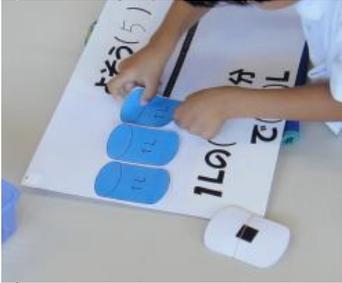
1 教材について

本時（1／7時）では、普遍単位（L）を用いて、水のかさを表すことがめあてである。そのために、①1Lますではかる場面では、教師とともに正しくはかるポイントを確認する②水のかさを数値化する（ワークシートの1Lますに色をぬる、発表シートに貼る）③はしたの表し方を確認するということにおいて、“2年生の児童でも無理なく行える活動を”と考え、指導を行った。

2 実践事例（本時の学習指導）

(1) 目標 普遍単位（L）を用いて、水のかさを表すことができる。

(2) 学習指導過程

過程	児 童 の 活 動	教師の支援活動	工夫した点
つかむ	1 本時の学習課題を確認する。 1Lますを使って、じょうろのかさを調べよう。	・関心・意欲を高めるために、電話での会話をする場面を設定し、見えないことからの行き違いの状況をつくる。	(4.5Lと6Lのじょうろを準備した)
↓	2 1Lますの必要性を理解する 	・かさをはかる単位として「L(リットル)」があることを示す。 ・正しい測定のしかたを意識づけるために、まずは教師側でやって見せることで「水をこぼさないようにする」ことや「ますいっぱいに入水を入れる」ことをきちんと押さえる。	・かさへの理解を深めるために、じょうろのかさを「1Lの□つ分」と数値化するだけでなく、はかりとった水を大きな水槽に入れて「□L」の量を目で確認できるようにした。
見通す	3 グループごとに1Lますを使って、水のかさを調べる。	・量感を育てていくために、じょうろに入る水のかさを予想してから測定するように伝える。	・思考が広がる活動を設定するために、班ごとに他種類のじょうろを準備し、入水のかさを調べた。
↓	深める  		・教室横にある多目的教室を広く活用し、6グループ（4人ずつ）が活動できるようにした。

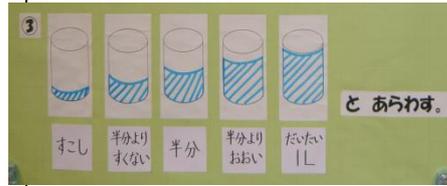
深
め
る
↓
ま
と
め
る
↓
生
か
す



・調べたことを発表する。



4 学習のまとめをする。



・グループで発表シートを完成した後、個人のワークシートにも学びの記録として書いておくように助言する。

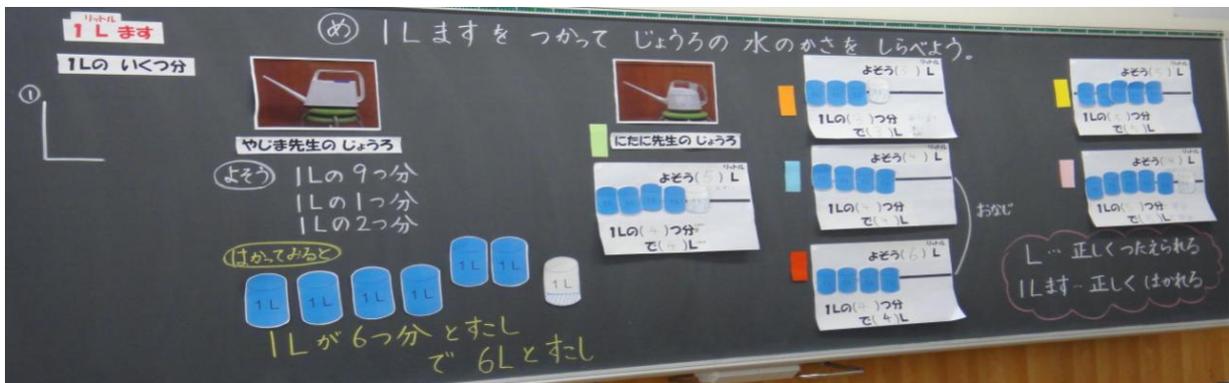


・前時にレディネスアップを行い、はしたの表し方を子どもたちと一緒に確認したものを掲示しておいた。

・発表シートには、貼る・ぬる活動を通して「1Lが□つ分で□L」ということを、2年生の児童でも無理なく行えるようにした。

・調べた後、水が多く入る順に（多い→少ない）並べた。

・次時へつなげるために、本時びったりはかれなかった端数のかさについて触れておく。



3 成果と課題

- 問題設定場面では、電話で『大きいペットボトル』と伝えただけではじょうろのかさにズレが生じることに気付かせ、児童に「1L」の普遍単位の必要性和感じさせるような状況を設定することができた。
- ねらいを達成できる活動になるよう、予想を立てさせたり、教師の支援として実際に活動前にやって見せたりしたことで、児童は安心して活動に取り組むことができていた。
- 自分(たち)で実際にはかるといふ学習活動を取り入れたことで、量感をとらえることができただけでなく、かさの測定の意味を理解することにもつながっていた。また、発表シートやワークシートがあったことで、児童は、「1Lの○つ分で、○Lです。」ときちんと単位を意識して言い表すことができていた。
- はしたの量をもう少し正確にかくためには、発表シートに貼っていく図を、もっと児童がイメージしやすい図（四角形・目盛り）にするとよかった。